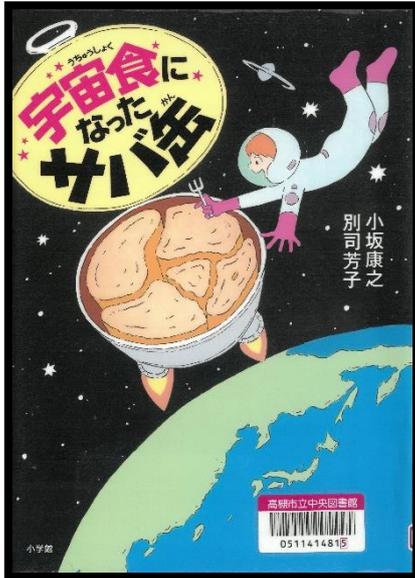


うちゅうしょく かん  
宇宙食になったサバ缶



こさか やすゆき べっし 芳子 / 著  
はやかわ せしお / 装画・挿絵  
小学館[667]

特集:たべもの

2022年11月15日に野口宇宙飛行士が国際宇宙ステーションに飛び立ってから10日後、空中に浮かぶサバの身をパクッと食べた野口さんは「うまい！大変すばらしいです。」と宇宙から伝えました。

この宇宙食こそ、福井県の高中生達が、地元でとれるサバで作上げたサバ缶なのです。自分達にもできるんじゃないか、という生徒の一言から始まった開発は14年におよびました。

NASAの厳しい基準や廃校の危機、数々の困難にもめげず、先輩達の夢を引きつぎサバ缶を完成させた、高校生と先生の実話です。

てん  
天の台所



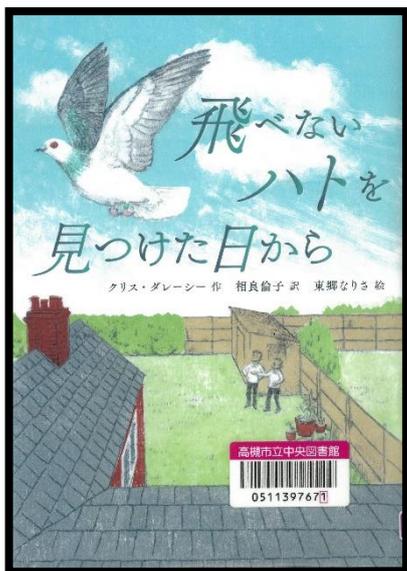
おちあい ゆか / 著  
講談社[913オチ]

台所は、家の心臓と言ひ、おいしい料理を作って家族を笑顔にしていたばあちゃんが亡くなり、六年生の天の家族は、弟と妹とお父さんの四大家族です。食事は、外で買ったお弁当やおそうざいになり、生活は荒れていきます。

そんな時に、近所のがみがみおこるおばあさん「がみババ」から料理を習うこととなります。卵すらまともに割れなかった天は、妹の誕生日にケーキを作ろうと挑戦します。

天が、ばあちゃんとの時間をふり返るとき、思い出とすぐにつながる特別な場所である台所を守りたい気持ちで、はじめた料理が、家族の絆を少しずつ深めていきます。

## 飛べないハトを見つけた日から



クリス・ダレーシー/作  
相良 倫子/訳  
東郷 なりさ/絵  
徳間書店[933ダレ]

公園でつばさの折れたレースバトを見つけたダリル。ハトの飼い主からは飛べないハトはレースに出られないからいらないと言われ、ダリルは自分で飼おうと決意します。

反対する両親を説得し、ハト小屋を用意して世話をはじめます。ハトの知識がないダリルは、わからないことばかりでしたが、ハトがきっかけでダリルの世界が広がり、ハトをレースに出場させることにします。

オスとメスの見分け方など、ハトの豆知識とともにダリルの成長を描きます。

## ぎりぎりの本屋さん



まはら 三桃/菅野 雪虫/濱野 京子  
工藤 純子/廣嶋 玲子/著  
講談社[913ギリ]

商店街の外れの細いわき道にある古ぼけた平屋の本屋さん。小さくて足を踏み入れるのにも勇気があるようなお店ですが、ここにやってくるお客さんは何かに「ぎりぎり」な人ばかり。

店内では、青いエプロンをつけた小学5年生くらいの男の子が店番をしていて、お店に入ってくるお客さん1人1人にあった本を紹介していきます。

児童文学作家5人のリレー小説で、「ぎりぎり」な思いを抱えた5人の小学生が、本と出会い、不思議な体験をし、友情を取り戻すお話です。